

防災を通じた絆づくり事業

「無縁社会から支縁社会を目指して」

～「自分が困った時に助けてくれる人がいる」四絡づくり～

出雲市 四絡コミュニティセンター

1 四絡地区の概要

(1) 地域の現状

四絡地区は、出雲市の中心部に位置し、北は出雲ドームから南は出雲市役所付近までの南北約2km、東はゆめタウン出雲から西はイオンモールまでの東西約2kmのおよそ4km²ほどの広さで、地区内には山も川も無く、標高は海拔3～7mと平坦だ。

平成元年当時、地区の人口は8千人に満たない地域であった。しかしながら、大型商業施設の進出や病院・金融機関の充実、そして国道9号バイパスの開通など、急速な都市化により利便性が向上し、地区外からの転入者が多く、人口は増え続けた。現在は当時より4千人以上多い1万2千人あまりの人が暮らすまちになった。

(2) 地域の特徴

四絡地区は、集合住宅が多い。持ち家比率は45%と少なく、若い子育て世代を中心に若年層が多く、高齢化比率は19.3%と島根県内で最も若者世代が多く住む地区の一つである。平成27年度には地区内で、年間200人以上の新生児が誕生している。

四絡地区は、平成11年度に学校選択制地区に指定されてから、他地区の小学校に現在約100名の児童が通学している。

(3) 地域の課題

四絡地区は、若い子育て世帯、単身労働者世帯、外国人居住者世帯、高齢者世帯の増加により、自治会加入率が38%と極めて低く、隣近所との付き合いが希薄化している。このことから、

ア 住民間コミュニケーションの不足

イ 無縁化と無関心の傾向

ウ 災害時コミュニティに課題

以上の3つが大きな地域課題となっている。

2 事業の趣旨

(1) 地域住民の防災意識向上

山が無く、海からも離れている四絡地区の住民は、防災意識が他地区の住民と比べて極めて薄い。地域住民の防災意識を向上させ、安心・安全なまちづくりにつなげる。

(2) 災害時要支援者の支援体制づくり

災害時要支援者の支援活動において、地区内の各団体が別々に行動しているため、避難計画が定まっていない。地区内各団体の連携をはかり、地区の避難計画を定め、避難行動の円滑化をはかる。

(3) 新たな地域コミュニティ（支縁社会）の構築に向けた一歩

高齢者および単身者世帯の増加にともない地域の防災・防犯の点で不安がある。住民間の連帯意識の向上により、地域活動への参画を促し、防災・防犯・環境活動を推進し、活力あるまちづくりをすすめる。

3 具体的な取組内容

(1) 地区防災訓練

9月1日、出雲市とともに四絡コミュニティセンターを主会場に地域初の実働型訓練として、次の3つの訓練を行った。

ア 住民避難誘導訓練



(小学校に一時避難した住民と支援隊員)

8町内会から47名の住民が四絡小学校に一時避難し、四絡災害時支援隊等の避難誘導で四絡コミセン避難所へ集団避難した。

イ 災害時要支援者避難訓練

四絡災害時支援隊を中心に、無線・車いす等資器材を準備し、避難誘導にあたった。



(自衛隊を先導し避難誘導する支援隊員)

ウ 避難所運営訓練

地区災害対策関係者と出雲市および多くの関係機関と連携し、総勢203名の参加で、避難所開設時の初動対応と、開設3日後の避難所生活対応との2段階で訓練を行った。避難所生活ルールを避難住民が協議し策定する訓練や、避難所運営班による運営会議開催等、実践的な訓練を行った。



(多くの避難住民で喧騒とする避難所)

(2) 災害時対応カード作成

災害時対応カードの作成は、地域として各町内会の避難場所の把握、災害時避難行動要支援者の把握、そして地区住民の避難行動の円滑化をはかることを目的として行った。自治委員は各町内会ごとに緊急避難先等を話し合い、町内会の集団避難場所を町内で申し合せた。各町内会で決められた避難場所を明示したカードを作成し、地区内の自治会加入全世帯に配布する。

(3) 先進地視察研修

地区災対関係者および住民の防災意識向上を目指して、地域防災に積極的な取組を実施している山口県防府市を訪ねた。防府市の防災担当者や自治会の防災士と、地域防災について積極的に意見交換を行った。

4 評価と成果

(1) 地域住民の防災意識向上

四絡地区で住民参加型の防災訓練を行ったのは今回が初めてで、住民の反応等不安があった。しかしながら訓練当日、地域ボランティアの地区災対スタッフや近隣の住民の自主的な参加もあり、また参加者はみなそれぞれの役割を真剣にこなし、主体的な行動が目についた。地域防災への関心度の高さとともに、自分たちのことは自分たちで守ろうとする防災意識が着実に向上していることが伺える。

(2) 避難行動要支援者の支援体制

四絡災害時支援隊の要支援者支援訓練を実際に行うことが出来たこととともに、地区内の要支援者の把握が出来つつある。

(3) 新たな地域コミュニティ（支縁社会）の構築に向けた一歩

事業を通して、地域防災における隣近所の付き合いの大切さ、支援の必要性を改めて認識している。

5 今後の課題と見通し

(1) 普段からの準備体制は必須

- ア 住民へ防災意識の継続的啓発
- イ 避難所、避難所運営の在り方について見直しが必要
- ウ 災害時対応装備・備品の整備

(2) 災害時対応体制づくり

- ア ボランティアの高齢化対策
- イ 地域防災には相当な人・財が必要
- ウ 地区災対の定期的会合

(文責 センター長 田村 道太)